

令和4年度(2022年度)
文化行政の概要

文化振興施策の総合的な推進

文化振興条例および文化振興基本方針（第3次）に基づき、文化振興施策の総合的な推進を図る。

文化振興条例

文化の振興に関する基本理念、県の責務、基本的施策等を明示するとともに、文化振興基本方針の策定について定める。

〔策定経緯〕 平成13年（2001年） 12月 文化芸術振興基本法制定
 平成19年（2007年） 9月 「滋賀の文化振興のあり方」提言
 平成21年（2009年） 7月 「滋賀県文化振興条例」制定
 平成23年（2011年） 3月 「滋賀県文化振興基本方針」策定

滋賀県障害者文化芸術活動推進計画

障害の有無にかかわらず、文化芸術活動を通じて、自分らしく活躍できる共生社会の実現に寄与する施策を総合的かつ計画的に推進。

- 計画期間：令和2年度（2020年度）から令和5年度（2023年度）
- 基本目標：多様な人びとが支えあうことにより、障害の有無にかかわらず誰もがともに、多彩な文化芸術活動に親しみ、活躍する環境の実現
- 施策の展開：

親しむ	障害者が文化芸術を鑑賞し、創造し、参加する機会の充実
つなぐ・支える	障害者が文化芸術活動を通じて、自らの能力を最大限発揮し、障壁なく社会参加できるよう支援するための「人」や「場」づくり
活かす	障害者が創り出す作品等を滋賀県の誇りうる魅力として国内外に発信するとともに県民の理解の一層の促進

障害者の文化芸術活動を支える拠点のあり方等に関する検討懇話会

- 誰もが文化芸術活動を楽しめる拠点や支援する人が集える拠点となる機能を有する「場」の構築に向けて、学識経験者等による懇話会を開催。（R2.8～R3.3）
- 県は、広域拠点としてのコーディネーターの設置、地域拠点（市町の文化施設等）と連携したプログラムづくりやネットワークづくりに取り組む。

文化振興基本方針

人口減少・高齢化の進行や新型コロナウイルス感染症の影響等、社会情勢の変化を踏まえ、令和3年3月に「滋賀県文化振興基本方針（第3次）」を策定。

- 取組期間：令和3年度（2021年度）から令和7年度（2025年度）
- 位置づけ：条例第4条に規定する文化の振興に関する基本的な方針
文化芸術基本法第7条の2に規定する地方文化芸術推進基本計画

基本目標 「文化芸術の力で心豊かな活力ある滋賀を創る」

施策の方向性

- 1 県民誰もが文化芸術に親しみ、多様な主体や世代等がつながる場をつくる
- 2 文化芸術をつなぎ支える人材や文化芸術の創り手や継承者を育む
- 3 文化芸術の多様な価値を地域づくりや他分野に活かし、活力ある滋賀を創る

施策の柱	重点施策	施策横断プロジェクト 滋賀の美の魅力発信
1 場をつくる	1 誰もが文化芸術に親しめる場の提供	
	2 多様な主体がつながる文化芸術活動の促進	
2 人を育む	3 文化芸術をつなぎ支える人材の育成・確保	
	4 文化芸術の創り手や継承者の育成・支援	
3 地域や社会に活かす	5 地域で育まれてきた文化的資産の発掘・保存・活用	
	6 文化芸術と他分野との有機的な連携の促進	
施策展開の視点「つながる」 文化芸術によって、人、地域および世代等のつながりが生まれるよう、施策を展開		

推進体制

多様な主体とのつながりによる連携・協働の推進
 （文化団体、民間団体、文化施設・教育機関、市町、国、他の地方公共団体等）

施策の柱1 場をつくる

文化芸術に親しめる場をつくることで、誰もが文化芸術に居場所や生きがいを見いだせ、多様な主体や世代等による交流や相互理解が進むことを目指す。

滋賀県芸術文化祭

県民の文化芸術に関する意欲的な公演および創作発表を奨励するとともに、文化芸術に親しみ鑑賞する機会を広く県民に提供することにより、県民文化の高揚を図ることを目的として、昭和46年から「滋賀県芸術祭」を開催。(平成12年度から「滋賀県芸術文化祭」に名称変更。)令和4年度で52回目となる。

主催:

滋賀県、滋賀県芸術文化祭実行委員会(各県域文化団体の代表、市町教育長の代表等で構成)、県教育委員会、(公財)びわ湖芸術文化財団

実施事業:

<オープニングイベント> (実施日)8月27日(土)
(会場)栗東芸術文化会館さくら
(内容)滋賀県次世代文化賞受賞者記念公演
0歳児からのコンサート
文化団体による子ども向け活動紹介ステージ
文化団体によるワークショップ等

<主催事業>

●美術展覧会:(展示期間)12月8日(木)~13日(火)(前期:工芸・書)
16日(金)~21日(水)(後期:平面・立体)

(会場)滋賀県立美術館
(内容)「平面」「立体」「工芸」「書」の4分野

●写真展覧会:(展示期間)9月13日(火)~19日(月)

(会場)滋賀県立美術館
(内容)単写真・組写真

●文学祭:(作品募集)7月1日(金)~8月31日(水)

(表彰式)11月23日(水)
(会場)滋賀県立男女共同参画センター
(内容)小説・随筆・詩・作詞・短歌・俳句・川柳・冠句の8分野

<参加事業>

芸文祭開催期間中に、市町、学校、文化団体、企業等が自主的に実施する芸術文化事業で、芸術文化祭の趣旨に沿ったものとして実行委員会が承認した事業。



びわ湖ホール舞台芸術体験事業(「ホールの子」事業)

県内の子どもたちが優れた舞台芸術に触れる機会を提供するため、県内小学生等をびわ湖ホールに招き、オーケストラとびわ湖ホール声楽アンサンブルによる音楽公演を実施する。

○公演の概要:

- 対象…県内小学校(国市町私立)、特別支援学校、各種学校(一般教養)、適応指導教室
- 内容…びわ湖ホール声楽アンサンブルとオーケストラによる音楽公演(約60分間)

○交通費の補助:

次の各号の経費に対して実費相当額を補助する。

- (1)バス等の借り上げに要する費用および有料道路の通行料金
- (2)児童生徒が電車、路線バス等の公共交通機関を利用する際の運賃

○参加人数:

年度	学校数	児童生徒数
平成28年(2016年)	115校	8,014人
平成29年(2017年)	121校	8,194人
平成30年(2018年)	124校	8,544人
令和元年(2019年)	137校	10,007人
令和2年(2020年)	中止	中止
令和3年(2021年)	103校	7,153人
令和4年度(2022年)	142校	9,853人



今年度の様子



●令和4年度 市町等別内訳

大津市16校1,948人、彦根市13校1,061人、長浜市12校638人、近江八幡市5校318人、草津市12校1,413人、守山市3校256人、栗東市7校517人、甲賀市12校578人、野洲市5校367人、湖南市3校192人、高島市13校437人、東近江市11校568名、米原市5校258人、日野町4校287人、竜王町2校113人、愛荘町2校166人、豊郷町2校71人、甲良町1校35人、県立7校367人、国立2校225人、各種学校1校15人、教育支援センター4教室23人

施策の柱1 場をつくる

滋賀県立芸術劇場びわ湖ホール

独自の自主制作による創造活動を基礎にしながら、県民をはじめ多くの方々に国際的水準の舞台芸術を最高の鑑賞条件で提供するとともに、誰もが舞台芸術の楽しみを味わえるよう、多彩なジャンルで国内外の優れた公演を開催する。

◆施設概要◆(平成10年9月5日開館)

- ◇ホール ・敷地面積 20,000㎡(大津市から借地)
・建築面積 13,960㎡ ・延床面積 28,940㎡
・客席数 大ホール1,848席、中ホール804席、小ホール323席
・その他 リハーサル室、練習室3室、レストラン等
- ◇駐車場 ・敷地面積 9,485㎡(県有地)
・駐車台数 普通自動車849台、バス3台程度



びわ湖ホール管理運営委託(指定管理)

<指定管理者>
公益財団法人びわ湖芸術文化財団

◆びわ湖ホールの主な事業◆

オペラ	オペラへの招待「ファルスタッフ」(7月15日～18日)「森は生きている」(1月26日～29日)、オペラセレクション「セビリアの理髪師」(11月26日、27日)、プロデュースオペラ「ニュルンベルクのマイスタージンガー」(3月2日、5日)
オーケストラ	ジルヴェスターコンサート(12月31日)、華麗なるオーケストラの世界(2月5日)マーラー・シリーズ(3月19日)、子どものための管弦楽教室(3月21日)
室内楽	アリス＝紗良・オット公演(5月21日)、前橋汀子 ヴァイオリン・リサイタル(6月11日)、室内楽への招待(3回)、びわ湖の午後シリーズ(2公演)、気軽にクラシック(5公演)
ダンス	山海塾「かがみの隠喩の彼方へ-かげみ」リ・クリエーション(5月22日)、KAAT「星の王子様-サン＝テグジュペリからの手紙-」(2月4日、5日)
演劇・古典芸能	坂田玉三郎 お話と素踊り(11月20日)、野村万作・萬斎狂言(12月4日)、舞台芸術研修・成果発表公演「シンデレラ」(3月18日)、二兎社公演(日時未定)
音楽祭	近江の春 びわ湖クラシック音楽祭2022(4月30日、5月1日)
普及事業	びわ湖ホール音楽会へ出かけよう！(6月1日～3日、6日～8日)、県内巡回公演、ふれあい音楽教室
専属声楽アンサンブル	定期公演(2公演)、美しい日本の歌(12月3日)、学校巡回オペラ「泣いた赤鬼」

滋賀県立文化産業交流会館

県立文化施設における北の拠点として、地域や施設の特徴を活かし、優れた舞台芸術の創造や文化、産業の振興を図る。また、公益財団法人びわ湖芸術文化財団法人本部地域創造部を拠点にして、県内の文化ホールや地域等と連携協働し、全県域を対象とした特色ある滋賀の文化・芸術振興の推進を図る。

◆施設概要◆(昭和63年4月22日開館)

- ・延床面積 10,561.04㎡
・客席数 イベントホール2,000席(36m×38.8m)、小劇場203席
・その他 練習室(2室)、会議室(5室)、パスポート窓口、びわこ文化センター、SOHOビジネスオフィス



文化産業交流会館運営委託(指定管理)

<指定管理者>
公益財団法人びわ湖芸術文化財団

◆文化産業交流会館の主な事業◆

公演制作	長栄座夏のフェスティバル(7月30日～8月7日)
人材養成	次世代育成ユースシアター事業「森は生きている」(12月18日) 古典芸能キッズワークショップ 箏曲ジュニア・アンサンブル(7月～11月) アートマネジメント人材養成講座(開催時期未定) 邦楽専門実演家養成事業(9月～11月)
普及啓発	滋賀県次世代創造発信事業「和のじかん」(10月～翌年2月)
産業振興	ビジネス・カフェ in 文化産業交流会館(開催時期未定) 近江のあたらしい伝統産業展(7月30日、7月31日)

◆地域創造部の主な事業◆

地域連携	びわ湖・アーティスト・みんぐる2022(10月) アートコラボレーション事業(6月～翌年3月)
文化情報の提供	湖国文化情報「れいかる」の発行 年5回発行、30,000部 / 回、県内約500か所の公共施設等に配置 湖国文化誌「湖国と文化」の提供 年4回発行、3,000部 / 回、うち、420部を県内外図書館、大学等に配布

施策の柱1 場をつくる

滋賀県希望が丘文化公園

希望が丘文化公園は、琵琶湖東南部に位置する丘陵地で、野洲市、湖南市、竜王町にまたがり、東西4km南北1kmにわたる416haの広大な公園であり、園内にあるスポーツ施設、青少年宿泊研修所、野外活動施設等を管理運営し、スポーツ・レクリエーション活動、自然体験活動等の主催事業を行っている。

◆施設概要◆(昭和47年4月開設)

スポーツゾーン

スポーツ会館、陸上競技場(8レーン)、球技場、野球場、ソフトボール場、テニスコート(屋内:人工芝3面、屋外:人工芝12面、ハード2面)、草野球場、ピクニックランド(13サイト)、フィールドアスレチック、グラウンドゴルフ場(32ホール)、芝生ランド、子どもひろば、グリーンアドベンチャー、サイクリングロード



野外活動ゾーン

野外活動センター、キャンプ場、ロッジ、パートセンター、オリエンテーリング

雨天活動場

文化ゾーン

青年の城(最大 360名宿泊可能)、多目的広場、桜の森、ファイヤー場、ウォークラリー、オリエンテーリング、ディスクゴルフ、サイクリングロード

希望が丘文化公園管理運営委託(指定管理)

<指定管理者>
公益財団法人滋賀県希望が丘文化公園

◆主な事業◆

自然を体験し楽しみながら学ぶ場の提供	希望が丘里山楽校(5月) 希望が丘夏休みわんぱくキャンプ(8月) 希望が丘冬の林間スクール(1月)
交流・憩いの場の提供	希望が丘新緑祭(5月) 希望が丘ふれあい祭(11月) 希望が丘スプリングフェスティバル(3月)
スポーツ健康づくり	希望が丘ハイキング(4月、6月、10月、3月) 滋賀県スポーツ少年団サッカー交流大会(6月) BIWAKOクロカン2023(2月)
社会教育・生涯学習の支援	希望が丘アウトドアスクール(通年) クラフト&フィールドゲーム(通年)

施策の柱2 人を育む

文化芸術を企画・総括するアートマネージャー、地域や学校等と芸術家等をつなぐコーディネーター、文化ボランティアなど、文化芸術を県民や社会とつなぐ人材や文化芸術の創り手や継承者の育成、確保を目指す。

新 文化芸術活動継続支援事業(施設使用料助成)

新型コロナウイルス感染症の影響により、文化芸術活動の機会が減少している状況において、感染拡大予防ガイドラインを遵守して実施する文化芸術活動の利用者(主催者)に対し、補助金を交付する。

取組	補助率	補助限度額
施設使用料	1/2	上限なし

【対象となる施設イメージ】

- 県内の公共施設(公民館等を含む)
- 利用料金が公表されている民間施設
- 国内のギャラリー

【令和3年度の実績】

〈文化芸術公演支援事業(施設使用料助成)〉

- 交付件数: 291件
- 音楽や舞踊、伝統芸術など様々な公演に活用

〈未来へつなぐしが文化活動応援事業〉

- 交付件数: 226件
- 配信ライブや美術展覧会、地域のお祭りなど様々な活動に活用



滋賀県文化賞

本県の文化の高揚に貢献し、その功績が顕著な者を顕彰するため、滋賀県文化賞等の表彰を実施。(昭和51年に制度創設、令和4年度で47回目。)

表彰の区分: 文化賞、文化功労賞、文化奨励賞、次世代文化賞の4つ

従来は推薦者を県内の市町、県内大学、文化団体等に限定していたが、候補者の確保・充実のため、平成30年度から推薦者を限定しないこととしている。

◆令和3年度 滋賀県文化賞等受賞者◆

※下段は受賞部門

滋賀県文化賞	神山 清子 芸術文化(陶芸)	橋本 圭祐 芸術文化(伝統工芸)
滋賀県文化功労賞	一般社団法人長浜みーな協会 郷土文化	野呂 昶 芸術文化(文芸文学)
	廣瀬 一實 学術	
滋賀県文化奨励賞	旭堂 南湖 芸術文化(大衆芸能)	湖南ダンスワークショップ 芸術文化(舞踊)
	橘 功一郎 芸術文化(陶芸)	
滋賀県次世代文化賞	堤 拓也 芸術文化(美術)	藤野 裕美子 芸術文化(美術)



令和3年度贈呈式の様子

施策の柱3 地域や社会に活かす

文化芸術を国際交流や観光、産業、福祉、教育等と連携させ、文化芸術が持つ多様な価値を地域づくりや経済の活性化等に活かすことを目指す。

文化芸術と他分野との有機的な連携の促進

① 心をつなぐ 文化芸術活用事業

① 【Web上に交流サイトを設置】

文化活動者同士、また県民と文化活動者が交流ができるような情報を掲載する。

<掲載情報例>

- ・ 県内の文化活動者の情報
- ・ 県・市町・国の支援情報の掲載
- ・ 新しいモデル事業の提案

例：アート×福祉 アート×地場産業



近江文化発見・発信事業

滋賀ゆかりの文学作品等を通じて、県民が滋賀の歴史・風土・文化等を改めて認識し、地域への愛着を深めるとともに、その魅力を発信する。

<概要>

- ・ 松尾芭蕉の句が詠まれた場所や司馬遼太郎氏の作品に登場する場所など、滋賀ゆかりの文学作品に関連する地を巡りながら俳句を詠む「吟行」イベントを県内3か所で開催予定。
- ・ また、「吟行」や滋賀ゆかりの文学作品に関連する地を事前に学習するための動画を作成し、HP等で発信する。
- ・ 若者が文芸活動を通じて滋賀の文化等の魅力を発見し、その発表機会を提供するため、「滋賀県高校生俳句コンクール」を令和3年度に引き続き実施する。

② 【文化芸術を他分野に活かすモデル事業の実施】

交流サイトの活用モデルとして、文化活動者と他分野の関係者がつながるとともに、新たな活動の場を創出し、文化芸術の多様な価値による地域づくりを行う。

開催場所：道の駅アグリパーク竜王

開催日程：令和4年10月9日(日)



アート×農業



松尾芭蕉ゆかりの
幻住庵



司馬遼太郎作品に
登場する五個荘金堂町



令和3年度滋賀県
高校生俳句コンクール

施策の柱3 地域や社会に活かす

障害者等の文化芸術活動を支える拠点づくり事業

びわ湖芸術文化財団内に「文化芸術による共生社会づくりコーディネーター」を設置。障害者等の文化芸術活動を支える人々のネットワークづくりや、誰もが楽しめる場づくりに取り組む。

- 市町の文化施設等と連携した、誰もが楽しめる文化芸術プログラムの実施
- 文化芸術と共生社会をテーマとした「文化芸術と共生社会を考えるトークカフェ」、「焚き火ミーティング」の開催
- 気軽に個別相談できるオンライン窓口「アートと社会の相談室」の開設

文化芸術による共生社会づくりコーディネーター 藤原顕太氏
(一社)ベンチ理事、(特非)舞台芸術制作者オープンネットワーク(ON-PAM)理事、(特非)Explat副理事長。

日本社会事業大学福祉計画学科ならびに桜美林大学文学部総合文化学科卒業。(有)ネビュラエクストラサポート勤務、アーツカウンシル東京のアーツアカデミー調査員等を経て、平成29年から令和3年1月まで(社福)グロー企画事業部において糸賀一雄記念賞音楽祭、ボードレス・アートミュージアムNO-MA、障害者の文化芸術フェスティバル等の企画運営に携わる。現在は埼玉県を拠点に、舞台芸術の制作や、芸術分野と福祉分野が連携したプロジェクトの企画等を手掛ける。



令和3年度の取組の様子

滋賀次世代文化芸術センター「文化芸術連携授業」

県内小中学校等の児童・生徒などに対し文化芸術に触れる体験授業を実施している「滋賀次世代文化芸術センター」の運営を支援し、「文化芸術連携授業」などを実施。

- 活動内容:陶芸体験、音楽プログラム、茶道体験など
- 活動実績:令和3年度 26校4,679名、令和2年度 17校3,903名

美ココロ・パートナーシップ事業

多様な環境下にある子どもたち(不登校や適応指導教室等に通う児童・生徒)を対象に、文化芸術体験プログラムを提供し、様々な芸術に触れる機会を提供。また、講師となる若手芸術家を「美ココロ・パートナー」として育成する取組を支援。

- 活動内容:陶芸体験、音楽プログラム、茶道体験など
- 活動実績:令和3年度 27校245名、令和2年度 16校215名



施策の柱3 地域や社会に活かす

文化財が持つ魅力に光を当て、地域の人々や支援者等とともに保存や幅広い活用に取り組むことで、文化財やそれらを育んできた地域に対する人々の理解や関心を深め、文化財を未来に着実に継承することを目指す。

文化財保護助成事業・指定文化財管理事業

国・県指定文化財の所有者または管理団体が実施する保存修理事業・管理事業等に対して、滋賀県文化財保存基金等を利用して助成。

指定文化財保存修理等補助事業

・国指定文化財保存修理等補助	28件
・県指定文化財保存修理等補助	10件
・埋蔵文化財発掘調査等補助	16件

指定文化財管理事業

・国指定文化財管理費補助	110件
・県指定文化財管理費補助	58件



文化財保存修理受託事業

国・県指定文化財建造物の保存修理事業を、滋賀県が所有者から受託し、計画的に保存修理を実施。

- ・国宝延暦寺根本中堂ほか1棟保存修理事業
- ・重要文化財聖衆来迎寺客殿保存修理事業
- ・重要文化財不動寺本堂保存修理事業

“輪でつなぐ”滋賀の文化財講座事業

県や市町が博物館等で実施する文化財講座を他館でもオンライン受講できるネットワークづくりを実施。

「彦根城」世界遺産登録推進事業

R4

- ・「推薦書原案」等の完成
- ・国内推薦の決定
- ・国からユネスコへの「推薦書」の提出

【目標】

R5

イコモスの
現地調査

R6

世界遺産
登録実現

※上記の目標で進めていたが、「佐渡島の金山」の再推薦が決定されたため、少なくとも1年先送りとなった。

「幻の安土城」復元プロジェクト事業

安土城の実像を明らかにし、目に見える形で復元し安土城の価値・魅力を発信。

- ・安土城の実像解明と保全
特別史跡安土城跡整備基本計画の策定(令和3年度～) ほか
- ・安土城見える化の検討
デジタル技術を活用した「幻の安土城」見える化基本設計の実施 ほか
- ・復元に向けた機運醸成

新 埋蔵文化財の魅力発信事業

地域の歴史を物語る埋蔵文化財の価値や魅力を、体験イベントや動画を通じて広く発信。

「近江の城」魅力発信事業

県内外に「近江の城」の魅力を発信し、城郭を基点に県内周遊を促す。

① イベント「近江の城」

- ・出張！お城EXPOの開催
- ・全国イベント(大阪、横浜)への出展



出張！お城EXPO

② 講座「近江の城」

- ・東京シンポジウムの開催
- ・連続講座「近江の城郭」
- ・探訪マップの作成、移住セミナー・応援団との懇話会

③ BIWA-TEKU「近江の城」

- ・近江の城100map, 1300map
- ・BIWA-TEKUアプリの活用(登録3万人)
- ・健康増進ウォーキングの開催
- ・動画(YouTube)による魅力発信



健康ウォーキング

施策横断プロジェクト 滋賀の美の魅力発信

『美の魅力にあふれる滋賀をみんなの美術館に』というコンセプトのもと、令和3年6月にオープンした県立美術館を拠点として、美術館の活動と、滋賀の各地域に存在している多様な美の魅力を伝える活動を関連付け、多くの方々の共感・参画を得ながら発信する。

滋賀ならではの各地の多様な美の魅力を伝える

美の資源活用推進事業

県内各地にある滋賀ならではの文化的資源を活用・発信する取組を支援し、その成果については県立美術館で展示・発表をおこなう。

○事業対象者：県内に所在または活動の拠点を有する団体、市町、等

◆参考実績：令和3年度「滋賀をみんなの美術館に」プロジェクト推進事業実施団体一覧

団体等名	所在地
ながらの座・座	大津市
国際芸術祭BIWAKOビエンナーレ実行委員会	近江八幡市
コニャンナーレ実行委員会	湖南市
湖北アーカイブ研究所	長浜市
地域とアートプロジェクト実行委員会	大津市
ナガハマグラスフェス実行委員会	長浜市
長浜城下町まちづくり勉強会	長浜市
長浜ローカルフォト	長浜市



湖北アーカイブ研究所



コニャンナーレ実行委員会

福祉の現場から生まれた造形の紹介(ふらっと美の間)

県内外の多くの方に、滋賀の福祉の歴史を背景に育まれた造形の魅力に出会っていただけるよう、県内の宿泊 施設等において、作品や映像の展示を行う。

◆令和3年度作品設置先◆

設置先	所在地
里湯昔話雄山荘	大津市
おごと温泉びわ湖花街道	大津市
料理旅館塩野温泉	甲賀市
尾上温泉 旅館 紅鮎	長浜市
イオンモール草津(映像展示のみ)	草津市



里湯昔話雄山荘での展示

滋賀県立美術館の活動



展覧会の開催

滋賀にゆかりの作家や、特徴的なコレクションを軸に多彩な切り口で展覧会を開催。

◆令和4年度展覧会予定◆

展覧会名	開催時期
生誕150年 山元春挙	4/23-6/19
塔本シスコ展 シスコ・パラダイス かかずにはいられない！人生絵日記	7/9-9/4
石と植物	9/23-11/20
川内倫子展(仮)	1/21-3/26
<常設展>コレクションを活用し、名品を選びすぐった「名品選」や、小倉遊亀作品にいつでも出会えるコーナーなどを通年展示	



教育・交流事業の展開

①学校・教育委員会との連携による美術教育プログラム

- ・学校団体による展覧会鑑賞プログラムの実施
- ・県内各地の学校における出前授業やワークショップの実施

②様々なニーズや世代に対応する鑑賞・体験プログラム

- ・年齢段階や障害の有無など多様な属性に対応したプログラムの検討・実施
- ・展覧会のテーマに関連した講座等の実施

③館内や地域での活動のパートナーとなるボランティア制度

- ・美術館の活動のパートナーとして、県民と美術館をつなぐボランティアの募集・養成

■ワークショップシリーズ「美の糸ロ・アートにどぼん！」

美術館と県立図書館・びわこ文化公園管理事務所・埋蔵文化財センター、県内の団体・施設と連携し、親子でアートをはじめ様々な体験を楽しめる、ワークショップを年間を通じて開催。

